

令和3年度ごみ量について

◆表1◆

項目	令和3年度実績	令和2年度実績	増減	一般廃棄物処理基本計画目標	
				R3年度※	R4年度
人口(10/1基準)	238,235人	237,636人	599人	238,405人	239,512人
総排出量	62,196トン	62,859トン	▲663トン	—	—
原単位	715.3g/人日	724.7g/人日	▲9.5g/人日	—	—
家庭系ごみ原単位	384.5g/人日	392.1g/人日	▲7.6g/人日	362.8g/人日	360g/人日
家庭系ごみ資源化率	38.9%	39.4%	▲0.4ポイント	41.1%	41%
総資源化率	—	42.6%	—	43.1%	43%
最終処分量	0	0	—	0	0

※R3年度目標値は、平成29年度実績と最終年度(R4年度)目標から算出した按分値です。

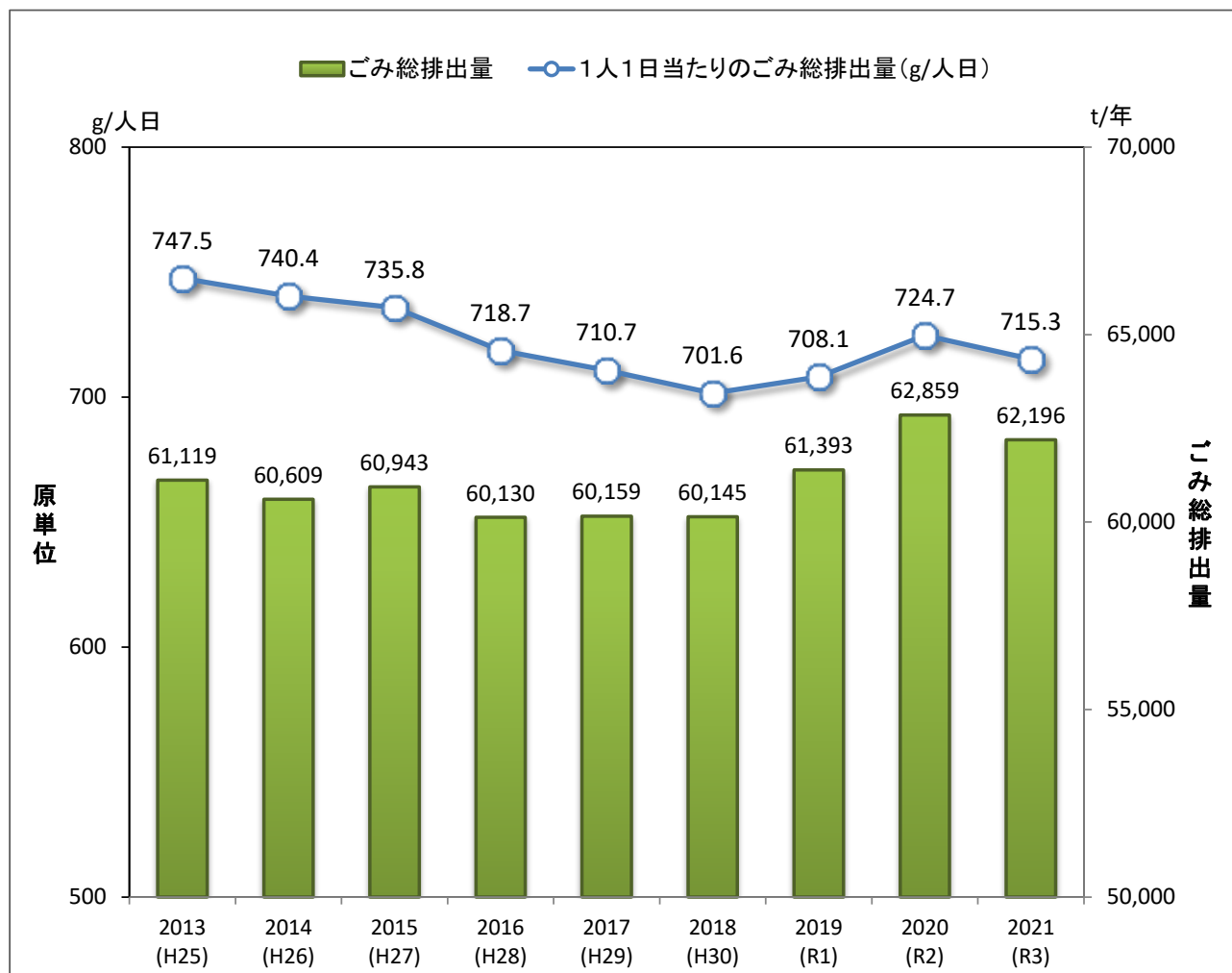
◆表2◆

*単位：トン

項目		令和3年度実績	令和2年度実績	増減	増減率
可燃ごみ	家庭系	27,920	28,351	▲431	▲1.5%
	事業系	7,429	6,769	660	9.7%
	小計	35,349	35,120	228	0.7%
不燃ごみ等	不燃ごみ	3,365	3,655	▲290	▲7.9%
	有害ごみ	87	95	▲8	▲8.3%
	小計	3,452	3,750	▲298	▲7.9%
粗大ごみ	可燃性粗大	1,159	1,031	128	12.4%
	不燃性粗大	431	419.6	12	2.7%
	粗大資源	476	458.6	17	3.7%
	小計	2,066	1,909	157	8.2%
資源物	古紙類	8,869	9,324	▲455	▲4.9%
	古布類	1,293	1,383	▲90	▲6.5%
	びん	1,900	1,960	▲60	▲3.1%
	缶	640	651.1	▲12	▲1.8%
	牛乳パック	23	24.3	▲2	▲6.2%
	ペットボトル	1,012	975	37	3.8%
	容器包装プラスチック	4,223	4,251	▲28	▲0.6%
	小型家電	6	5	0	7.5%
小計	17,964	18,573	▲609	▲3.3%	
収集ごみ量		58,831	59,352	▲521	▲0.9%
集団回収		3,365	3,507	▲142	▲4.1%
合計(総ごみ量)		62,196	62,859	▲663	▲1.1%

*単位未満四捨五入のため、数値が一致しない場合があります。

1 総ごみ量の推移



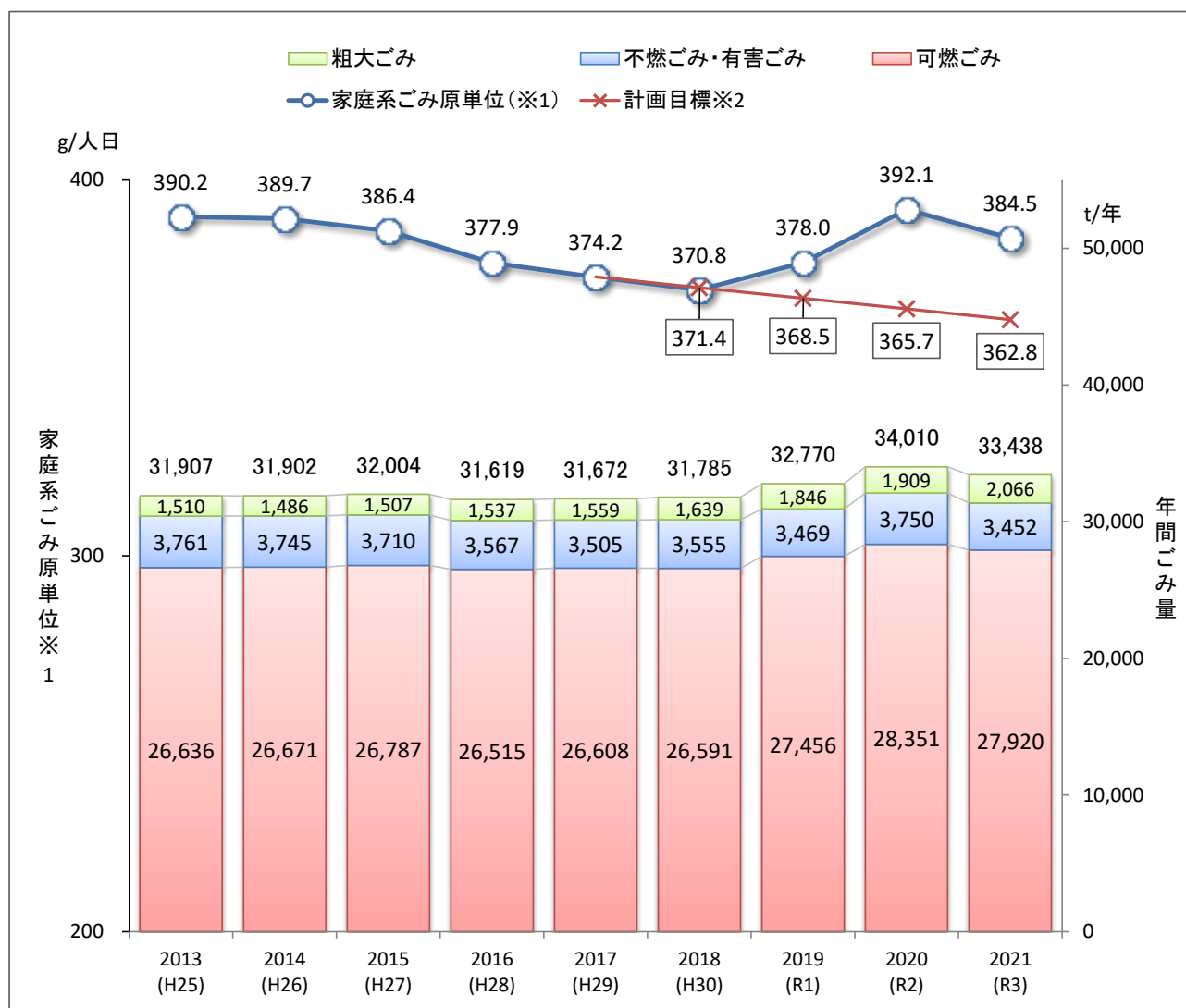
※ごみ総排出量：家庭系ごみ＋事業系可燃ごみ＋資源物（集団回収を含む）

1人1日当たりのごみ総排出量（原単位）：ごみ総排出量÷人口÷年間日数

令和3年度のごみ総排出量は62,196トンと、前年度と比べて663トンの減少となりました。1人1日当たりのごみ総排出量（原単位）も、715.3g/人日と前年度比で9.5g/人日（1.3%）の減少となっています。

令和2年度はコロナウィルス感染症拡大による家庭の巣ごもり需要（飲食料品や日用品）の影響でごみ量が大幅に増加しました。令和3年度は減少に転じたものの、まだコロナ禍前の令和元年度よりも高い水準にあり、コロナ禍の影響は残っているものと考えられます。

(1) 家庭系ごみ量の推移



※ 1 家庭系ごみ原単位：家庭系ごみ（可燃,不燃,有害,粗大）÷人口÷年間日数

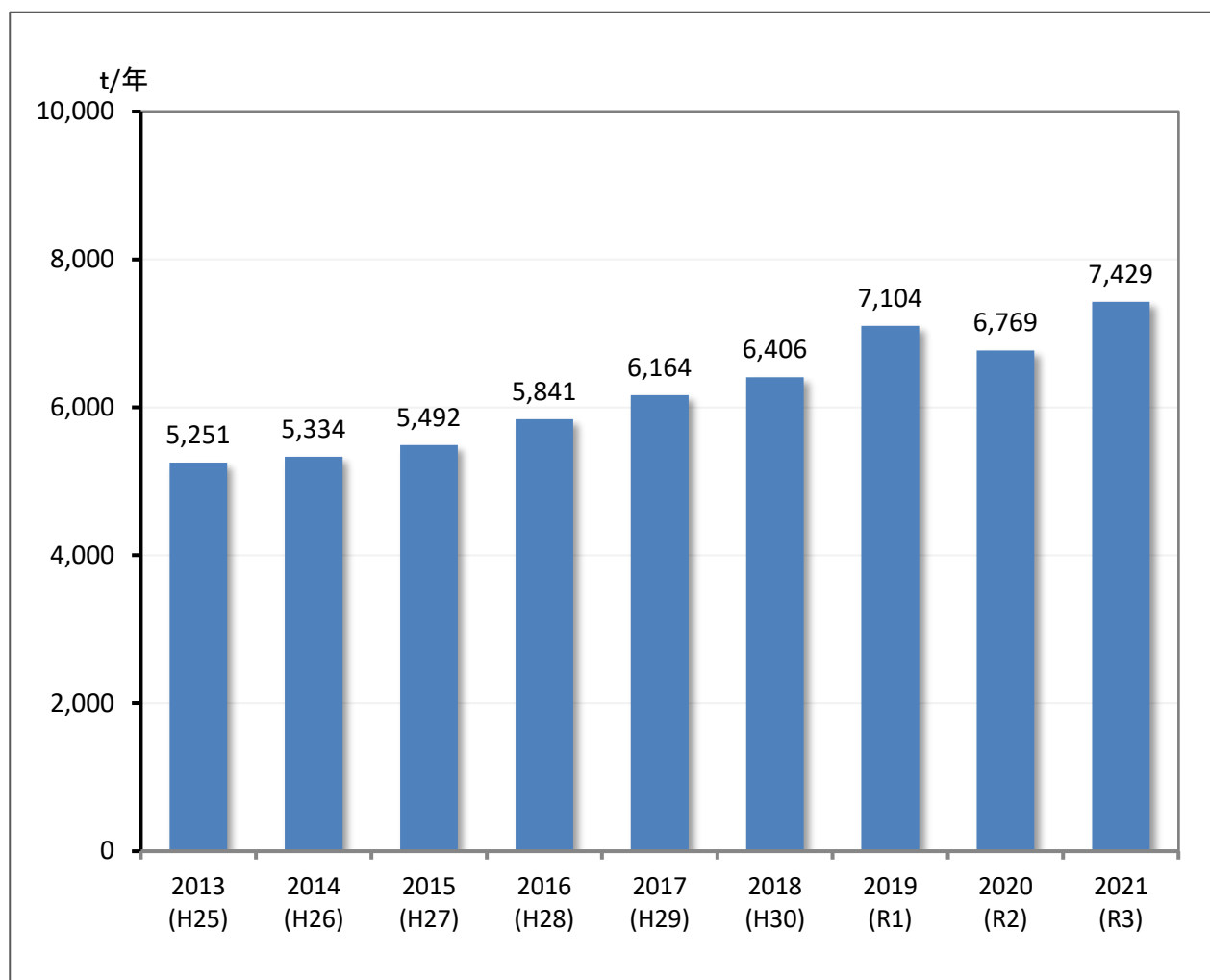
※ 事業系可燃ごみや資源物は除きます

※ 2 平成 30 年度～令和 3 年度の計画目標は、平成 29 年度実績と最終年度（R4 年度）目標から算出した按分値です。

令和 3 年度の家庭系ごみ排出量は 33,438 トンで、前年度より 572 トン（1.7%）の減少となりました。ただし、コロナ禍前の令和元年度排出量の 32,770 トンよりは高い水準にあります。

家庭系ごみ原単位（市民 1 人 1 日当たりの排出量）は、1.9%減の 384.5g/人日でした。令和 3 年度目標値 362.8g/人日（令和 4 年度目標から算定）を 21.7g/人日上回っています。

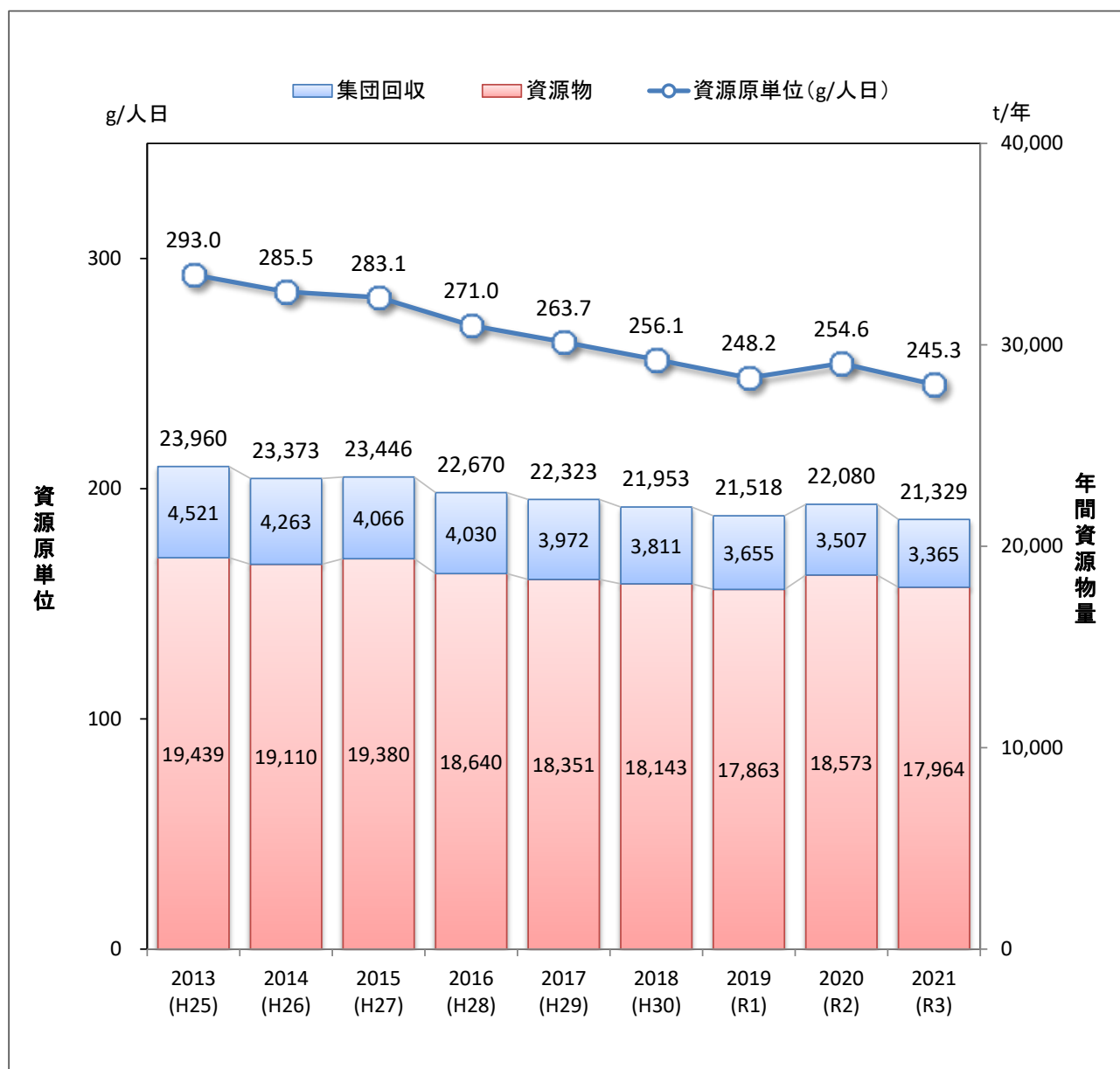
(2) 事業系可燃ごみ量の推移



※事業系可燃ごみ量：清掃工場に持ち込まれた事業系の可燃ごみ量

令和3年度の事業系可燃ごみ量は7,429トンと、対前年度で660トン（9.7%）の増加となりました。令和2年度はコロナウィルス感染症拡大に伴う飲食店の営業自粛などで令和元年度よりも335トン減少していましたが、再び増加に転じています。

(3) 資源物・集団回収量の推移



※資源物：行政が分別収集した資源

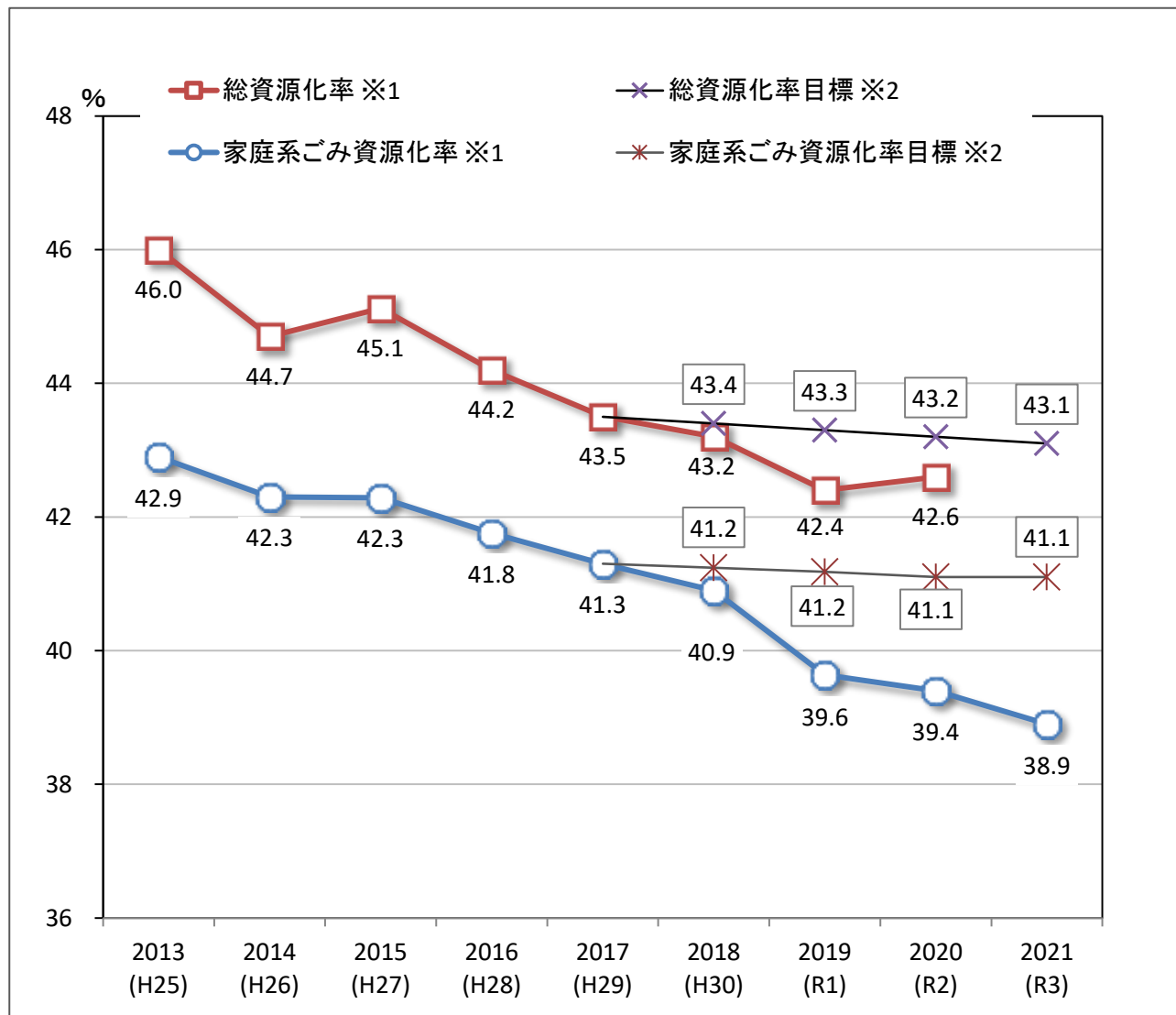
集団回収：自治会やPTAなど市民団体が回収した資源

令和3年度の資源物・集団回収量は、前年度から751トン減（前年度比3.4%減）の21,329トンとなりました。原単位（1人1日あたりの量）も前年度比3.6%減の245.3g/人日となっています。

1ページの品目別の増加量を見ると、令和2年度に増加していた古布類、びん・缶類が再び減少傾向に転じています。なお、古紙類は継続的に減少傾向にあります。

また、集団回収量は前年度より142トンの減少となっています。

2 資源化率の推移



※ 1 総資源化率 = (資源物 + 中間処理施設資源化量 + 集団回収) ÷ ごみ総排出量

* 粗大ごみからの金属回収や焼却灰のエコセメント化を含む

家庭系ごみ資源化率 = (資源物 + 集団回収) ÷ (ごみ総排出量 - 事業系ごみ量)

* 家庭から出る不用物の内、資源として分別された割合

※ 2 平成 30 年度～令和 2 年度目標は、平成 29 年度実績と最終年度 (R4 年度) 目標から算出した按分値です。

資源物・集団回収量が前年度に比べ減少し、家庭系ごみ量も減少したものの資源物ほどの減少幅では無かったため、家庭系ごみ資源化率は前年より 0.5 ポイント減の 38.9% となりました。

※ 総資源化率は、ふじみ衛生組合や東京たま広域資源循環組合での資源化量が確定次第掲載します。